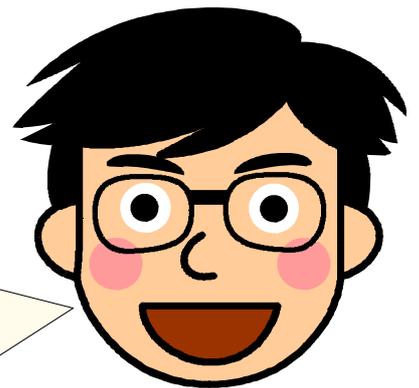


概要のページへようこそ

ここには研究の概要についてまとめた資料が、6ページあります。最初から順に見ていくもよし。気になるところから見るともよし、どうぞご自由にご覧下さい。

なお、この資料は平成16年2月7日(土)に行われた「ぐんま教育フェスタ2004」で配付したものです。



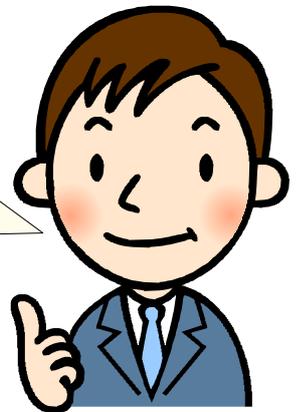
主題設定の理由と研究の構想について

実践の概要について

研究の結果について1 (つかむ過程・調べる過程)

研究の結果について2 (深める過程・広げる過程)

ご覧になりたいページを
クリックして下さい。



有意義な交流にするために、 授業に取り入れた手立てについて



手立てを取り入れた結果について (子どもたちへのアンケート結果)



社会的事象の意味について深く考える子供を育てる社会科指導の工夫

- 子供たちが交流し合う活動を通して -

教科教育 G 社会・地歴・公民班 長期研修員 竹田 元(伊勢崎市立豊受小学校)

長期研修員 山田 浩昭(六合村立第一小学校)

問題解決的な学習の課題

調査とその発表で終わってしまい、社会的事象の意味について深く考えさせる学習になっていない

「子供たちが交流し合う活動」を、問題解決的な学習の各過程に意図的に組み入れる！

時間とともに大きく変化していく社会的事象を扱う場合、調べたことをそのまま覚えただけでは、ほとんどが応用のきかない知識のままで終わってしまいます。大切なのは「**調べたことから考える力**」、つまり、将来様々な課題に直面したときに生きて働く力をつけることだと考えます。

そのための手立てとして、本研究では「**子供たちが交流し合う活動**」に着目し、問題解決的な学習過程の改善を行いました。



本研究の「子供たちが交流し合う活動」とは...
 気付きや疑問、話し合いの結果などを**発表し合う**
 出された考えなどに対し意見を**交換し合う**
 問題解決の方法などについて**話し合う**
 調べて分かった事実を**教え合う**

研究の構想

学習過程	ねらい	子供たちが交流し合う活動 ()は交流の単位	有意義な交流にするための主な手立て
つかむ	一人一人の気付きや疑問を出発点にし、観点を基に話し合って問題を焦点化していくことによって、 問題をより確かに把握する	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気付きや疑問を発表し合う(生活グループ) 追究の方向性について話し合う(生活グループ 全体) 	<ul style="list-style-type: none"> 付せん紙の使用(問題の焦点化) ポイントカード(問題を焦点化するための観点)
調べる	共通問題の解決に向けて協同で調査し、調べて分かった事実を教え合うことによって、追究している社会的事象の 事実を正確に把握する	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の方法を話し合う 調べて分かった事実を教え合う(調査グループ:同じ共通問題を追究する子供で構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ジグソーメソッド ポイントカード(発表の仕方)
深める	調べて分かった事実を教え合い、結果を比較・関連・総合させて考えることによって、 社会的事象に対し自分なりの意味付けを行う	<ul style="list-style-type: none"> 調べて分かった事実を教え合う(発表グループ:各調査グループのメンバーが入り混じるように組み替えたグループ) 	<ul style="list-style-type: none"> ジグソーメソッド ポイントカード(比較・関連・総合させて考えるための観点)
広げる	新たな問題の解決策について観点を基に話し合い、その有効性を検討することによって、 社会的なものの見方や考え方を広げる	<ul style="list-style-type: none"> 新たな問題の解決策について話し合ったり、意見を交換し合ったりする(3人編成の小グループ 全体) 	<ul style="list-style-type: none"> 3人編成の小グループ 付せん紙の使用(解決策の有効性の検討) ポイントカード(検討の観点)

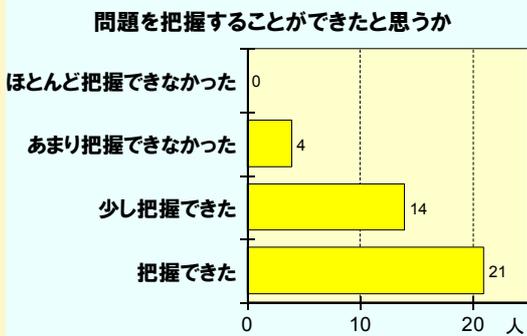
社会的な事象の意味について深く考える子供



研究の結果をまとめると

つかむ過程 問題をより確かに把握できたか

子供たちは、気づきや疑問を発表し合ったり解決の方向性について話し合ったりしたことで問題を把握することができました。事後調査でも、39名中35名の子供が問題を把握できたと答えています。多様な意見を聞くことによって、新しい発見をしたり自分の考えに自信をもったりした子供の姿がたくさん見られました。



さんが、問題を把握していく様子

車がたくさんある。(船のことも気になるけど、なんだか自信がないな。)

白い車が多い。港に船がとまっています。

(船に気が付いたのは私だけじゃなかったんだ。)大きい船が一隻ある。

車と船に気が付いた人が多かったね。関係ありそうだから、調べていく必要があるんじゃないかな。

さんが発表してくれる？

グループで話し合ったことを発表します。なぜ車がたくさんあるのか。なぜ船があるのか。・・・(自信をもって発表できた。次の時間から、がんばって調べていこう。)

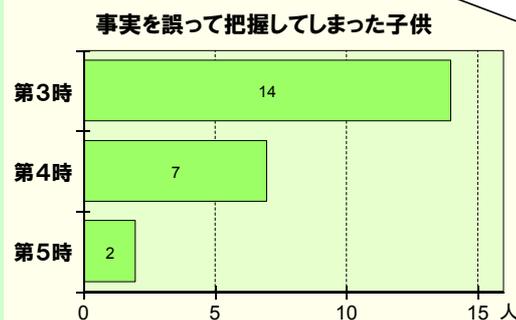
グループの中で発表し合う

グループの中で話し合う

全体で話し合う

調べる過程 事実を正確に把握できたか

調べ学習では、資料を読み取る力の不十分さから子供たちが事実を誤ってとらえてしまったり、一面的なとらえで満足してしまったりすることがありますね。しかし、個人で調べた後に、調べて分かったことや考えたことを教え合う活動を取り入れた結果、教え合いの中で子供たちは正しい情報に修正したり、新しい情報をつかみ社会的事象を複数の視点からとらえたりして事実を正確に把握することができました。



さんが、事実を正確に把握していく様子

一番輸出が多い国は、アメリカだと予想していたけれど、調べてみたら香港でした。使った資料はこれです。

うーん、ぼくが調べたのとは、何だか違うな。あれっ、資料の読み取り方が違ってない？

ほんとだ、調べる前に予想した通りで、アメリカが一番だったんだ。

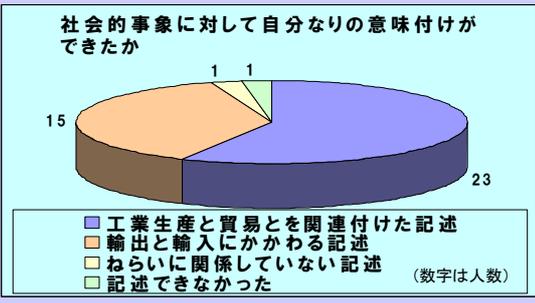
グループのみんなにアメリカが一番だよって教えてもらってよかったです。もし教えてもらえなかったら、間違えたことを勉強したことになると思います。

調査グループで分かった事実を教え合う

第5時は、深める過程ですが、教え合いの中で事実を正確に把握する場面があるので、一つのグラフにまとめました。

深める過程 社会的事象に対し自分なりの意味付けを行えたか

子供たちは、多くの新しい情報をつかんだり、発表グループのメンバーにいていねいに教えてもらったりしたことで、教え合いのよさを感じていました。調べる過程と深める過程での教え合いを通して、子供たちは輸出と輸入に関する事実を正確に把握することができました。そして、分かった事実や考えを比較・関連・総合させて、輸出と輸入について自分なりの意味付けをすることができました。ワークシートの記述を見ると、単に輸出や輸入だけではなく、貿易と工業生産とを関連付けた記述ができた子供も23名いました。



発表グループで分かった事実を教え合う

さんが、自分なりの意味付けをしていく様子

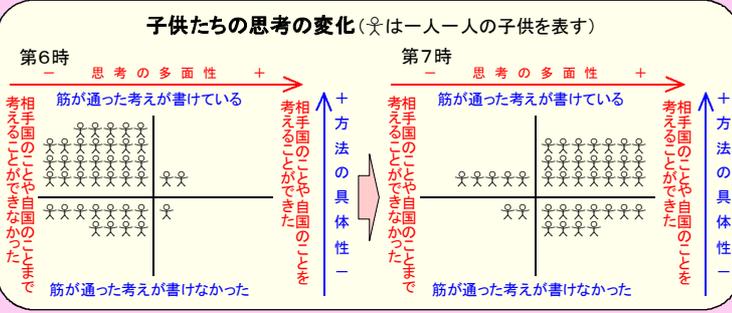
日本は機械を多く輸出しています。外国では、機械はあまり作られていないのではないのでしょうか？

輸入しているものの割合で一番多いものは、機械類です。

日本が、一番多く輸入をしている国は、アメリカです。

輸出も輸入もアメリカと多くやっているんだね。それに日本は、輸出しているものも輸入しているものも、どちらも機械が多いんだね。予想していたこととは違っていたけど、また新しいことが分かってよかったな。友達の考えや意見はすごいし、みんなで調べたり教え合ったりするっていいな。

広げる過程 社会的なものの見方や考え方を広げられたか



一人で貿易摩擦の解決方法を考えたときには、有効性だけに目を向けがちでしたが、3人で話し合う中で違う考えにふれ、問題点にも目を向けられました。そして、全体で意見を交換し合うことによって、さらに多様な考えに気づき、問題が抱える複雑さを理解できました。子供たちが最後に書いたワークシートを見ると、前時とは違って、相手国のことを考えることや協力し合うことなどが必要だという記述が多く見られるようになり、今までよりも広い視野から考えることができるようになっていました。



小グループで解決方法について話し合う

さんが、見方や考え方を広げていく様子

最初は③の「輸出を中止する」がいいと思ったけど、これはやめよう。①の「輸出した分だけ輸入する」と⑥の「輸出する金額を決める」を合わせるといいかな。うーん、⑦の「アメリカと日本が手を組む」というのもいいな。

①がいいんじゃない。

(二人は①がいいみたいだけど、どうか) そうだ、全部ではなく、一部を減らせばいいんだ。②の「輸出を減らす」では、どう？

いいね。それにしよう。君、それを発表して！

輸出を減らすと、会社の収入が減り、リストラも多くなるよ。

いい方法だと思ったんだけど、輸出を減らすと大変なことになるな、よいことよりも問題点の方が多いんだな。だけど輸出のし過ぎはよくないし。貿易の問題はとて難しいな。

全体で意見を交換し合う

問題解決的な学習の各過程に、子供たちが交流し合う活動を取り入れたことによって、子供たちは多様な見方や考え方にふれ、それらを基に自分の考えを確かめたり修正したりしながら、広い視野に立って社会的事象の意味について考えることができたと考えています。

有意義な交流をするために

本研究で取り入れた主な手立て

観点を与える

子供たちは、やり方さえ分かればできることがたくさんあります。ただ「話し合ってみよう」「考えてみよう」と言うのではなく、観点を与えることによってそれらが上手にできるようにしてみました。
ポイントカード(観点を示したカード)の活用

【ポイントカードの一例】

考えるポイント

- 比べる...にいてるところ、ちがうところ
- つながり(関係)を考える
- 合わせて(まとめて)考える

分かった事実を基に、社会的事象の意味について考えるときのポイント
第4, 5, 7時に活用

自分の生活は
食料は?
衣類は?

家の収入は?
エネルギーは?

解決策の有効性について話し合うときのポイント(抜粋)
第7時に活用

ジグソーメソッド

「社会的事象を複数の視点からとらえる」「傍観者のな子供をなくす」「発表準備にかかる時間を短縮する」など、多くの点において有効な方法です。まず、個人やグループで問題を分担して調査活動を行います。次に、各メンバーの調査内容が重複しないように組み替えた「発表グループ」の中で、一人一人が発表者となって結果を教え合いました。

調査内容:トラック

調査内容:船

【例:四つの輸送方法の特色を調べる(第2時)】

便利

分担して調査する

正確

調査内容:貨物列車

安い

分かったことを教え合う

速い

調査内容:飛行機

結果をもとに考える

運輸の方法にはそれぞれ長所と短所があり、企業はそれを考えながら運輸している

第2, 3, 4, 5時に取り入れた

付せん紙の使用

付せん紙に考えを書いて発表し合い、それら进行操作しながら話し合うと、自分の考えを伝えやすくなりました。また、互いの考えが視覚的にもよく分かり、話し合いがすすみやすくなりました。

一人一人の気付きや疑問を基に、話し合っ
て学習問題をつくる(第1時)

それぞれの解決策の有効性について、小グループで話し合う(第7時)

小グループでの話し合い

傍観者をなくし、一人一人が主体的に話し合いに参加できるように、3人編成のグループを組みました。5人以上のグループでは、しっかりしたリーダーがいなければ、話し合いを深めるのは難しいのではないのでしょうか。

【第7時 貿易摩擦の解決策についての検討】

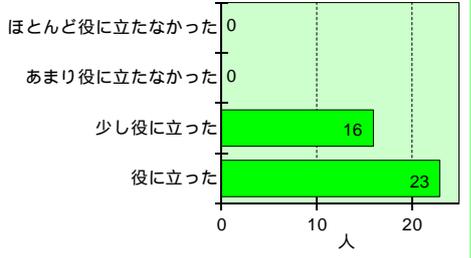


子どもたちは、こう感じました！

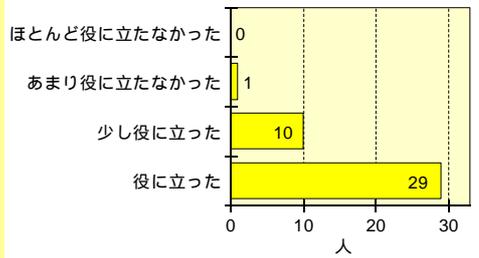
どんなことを話し合えばよいのかわかったので、意見が言いやすかったです。



自分は輸出のことを調べたのに、輸入のことについてもよく分かりました。



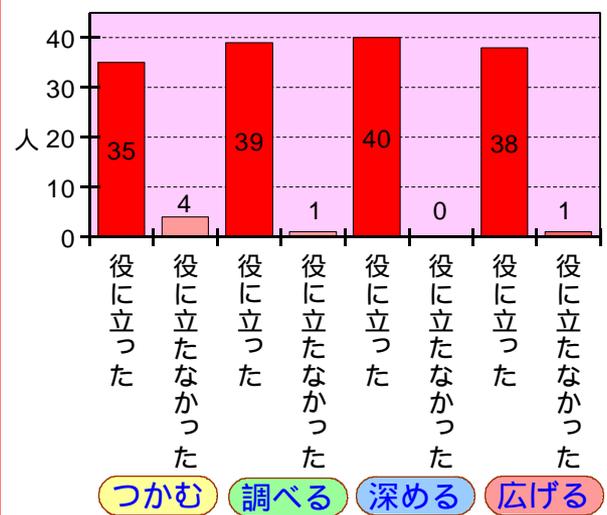
話し合いの観点を与える



ジグソーメソッド

交流し合う活動

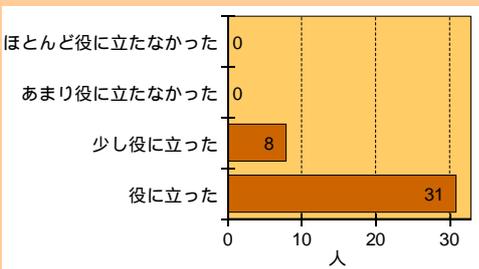
色々な意見の中に、自分と同じ考えがあって自信をもちました。話し合いを中心にした学習をしたことで、積極的に発言できるようになり、社会の学習や話し合いが楽しくなってきました。



色々な人の意見が聞いて自分の考えをもつのに役に立ちました。ほかの人の意見を聞いて自分の考えと比べられたのがよかったですと思います。



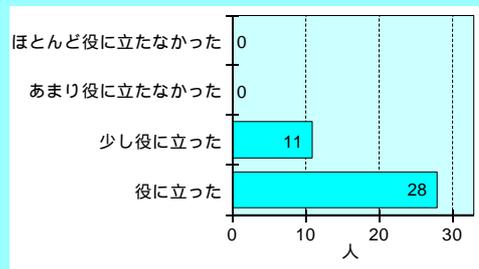
付せん紙の使用



付せん紙を動かしながら話し合ったら、解決方法について、とても楽しく考えられました。



小グループでの話し合い



3人だと、とても話しやすく、どんどん意見を言うことができます。

上のような手立てを取り入れたことで有意義な交流となり、子どもたちは、それぞれの学習過程のねらいを達成するのに役に立ったと感じていました。話し合う活動を積極的に取り入れ、観点の与え方やグループ編成などを工夫することで、子供たちは話し合いが上手になります。3人編製のグループは、グループ数が多くなってしまいうため、一斉指導では取り入れることが難しい場合もあります。社会科でも少人数指導を取り入れていくとよいと思います。

